



平成30年 1月号

社会福祉法人翠浩会
障害者支援施設

新 光 苑

<http://www.shinkoen.net/>
〒360-0832 熊谷市小島527番地
TEL. 048-532-0665

にちにち あら
日々心新たに
仕事に立ち向おう
苑長 西田良次



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新光苑の運営につきましては、職員一同の協力によって順調に行われております。利用者の高齢化に伴ない、医療ケアを必要とする人の

増加に悩まされています。本苑設立当初は全く予想もなかった問題が歳月の経過と共に、次々と起こって来る事に戸惑っています。

考えてみれば障害者福祉もその歴史は浅く、行政側でも時流に合わせて順次制度改正を行い、平成25年4月より「障害者総合福祉法」が施行されました。「身体障害者療護施設」を運営して来た私には、このままで今後円滑に推移してゆくとはとても思えません。いかがでしょうか。「三障害一元化」と「地域福祉」が柱ですが、本苑設立の基本である脳性マヒ者専門施設に特化しても、利用者は個別的に症状が異なり、苦慮している現状を考えると、無理な感じがいたします。

又「地域福祉」と云っても、どこまでを地域と考えているのか、現実に地域住民の協力が得られるのか、極めて難しい問題です。

平成元年熊谷地区父母の会の有志と立ち上げた新光苑の目的は、重い障害を持って生まれて来たけれど、可能な限りの環境を整備して「生き甲斐

ある人生」を送らせてやりたいとの一念でした。今日直面している問題は利用者の高齢化と医療ケアの充実です。

老人ホームの入所期間は平均10年以内と聞いていますが、本苑の場合は18才から入所出来ますので生涯となり、50年超の場合もあり得ます。これを解り易く云えば、家族で面倒を見られない重度の障害者を養子、養女に貰い受けるのと同じです。保証人も父母から兄妹へ、そして成年後見人へと移ってゆきます。万一の時も全て新光苑でお願いしますとの事例も増えていきます。

これ程重い責任を負わされる仕事だったのかと改めて考えさせられています。

今日行政は地域福祉の推進に力を入れ、各地にグループホームが作られ、以前と較べると入所希望者の問合せは、大幅に減っております。

保護者にとっては、身近な施設で生涯を過ごせるのが理想ですが、現実には前述の通りで早晩深刻な事態に直面するのはと危惧しています。

いずれにしても「障害者福祉」は年を追う毎に厳しさを増してゆくと思いますが、その中でいかにしてサービスを向上させ、施設整備を押し進め、職員を確保して円滑な施設運営をしてゆくかが問われています。

私の経験から考えますと、現在は混乱期のように感じます。これから5年の歳月を経て、各施設がそれぞれの特徴をもって進むべき方向が定まるのではないかと思います。新光苑はその中で発展し続けてゆかなければなりません。

「日々に心新たに仕事に立ち向おう」をスローガンに、職員一同一丸となって設立のロマンの実現に向けて、頑張るべく決意です。

平成30年の抱負

副苑長 横川与志子



新光苑にとって年始の最大変化は、看護師24時間体制が実現できたことです。近年医療ケアの対応が最大の懸案事項でした。看護師不在の夜間及び土日に、支援員を追加配置することで何とか凌ごうとしましたが、そもそも支援員そのものが人員不足です。そこで大胆な報酬増加と募集活動により、利用者様・保護者様に安心して頂けるよう、看護師を新規に7名採用致しました。

昨年は大規模修繕に関して、皆様のご理解を得られたにも関わらず、残念ながら国庫補助金の申請が採択されませんでした。今後もし必要の非常に高い大規模修繕計画を最優先で継続し、採択され次第工事に着手致します。今年3月下旬に、今年度国庫補正予算の内示がある可能性があります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

好景気により人手不足が継続していますが、新光苑では利用者様の高齢化・重度化に対応するため、更なる支援員配置が必要で、職員不足の深刻さが増えています。職場環境・待遇改善に取り組み、新卒正職員・パート職員を確保して、より良いサービスを提供できるよう努めます。

来年は新光苑開苑30周年を迎えます。更に西田苑長90歳・前理事長88歳の節目の年でもあります。これまでの確かな歴史に支えられ、変革を恐れず新たな新光苑運営を模索し、精進して参ります。皆様今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

目配り 気配り 思いやり 笑顔溢れる新光苑

サービス部部长 江村 玲



今社会は大きな変革の時代を迎えています。IT化や人工知能の出現、ロボット化と今までの発想では対応出来ない状況となってきました。人に代って仕事をしてくれるのは人工知能やロボットであり、人はケースバイケースで判断を求められる役割を担っていくことになるようです。福祉分野に於いても早晚同じ波が来ること予想され、人手不足は解消し、施設における職員の役割は大きく変わっていくと思われまます。

しかし新光苑の現状は、利用者の高齢化、重度化により生活支援と医療ケアにより多くの職員を配置しなければならぬ状況です。ご承知の通り福祉関係は深刻な求人難が続いています。

足りない職員をどう集めるかと並行して、今いる職員でどう対応すれば必要な支援ができるかを考えなければいけません。それには各自が知恵を出し合い、効率の良い仕事のやり方に変えてゆくことと、支援を利用者の現状と施設の現状に合せて見直してゆく事です。

どれだけ素早く改革が断行出来るかが、これからの新光苑の進路を決める「鍵」となると思えます。人手不足が新光苑だけでしたら大問題ですが全ての施設が同じです。その中からいかに人手を確保し、サービスの向上を計り、事業規模を拡大し、財務体質を強化してゆかかを考えた時、千載一遇のチャンスではないでしょうか。ピンチこそチャンスを中心に秘めて、「目配り 気配り 思いやり 笑顔溢れる新光苑」の実現のために頑張ります。

クリスマス会 横堀成美

12月22日(金)、250名以上が参加したクリスマス会が開催されました。苑長の挨拶で始まり、次に有志の職員でクリスマスソングが歌われると、会場はクリスマススの雰囲気になりました。

続いて「POP-CORNER」様のステージでした。圧巻の歌唱で、会場は大きな盛り上がりを見せました。演奏後は感謝の印として利用者様代表から花が手渡されました。

次にサンタクロースやトナカイの衣装に身を包んだ職員により、プレゼント配布が行われると、多くの利用者様は笑顔になっていました。その後、「Dance」様のマジックが行われ、間近で見ても分からないプロの技に皆さん驚いている様子でした。最後に来年度の新任職員紹介で、6名の内定者による自己紹介の後、閉会となりました。





1月8日(月)、新年会がホール棟を会場として、利用者、保護者、職員等200余名の出席のもと盛大に開催されました。

苑長の新年の挨拶で開会、続いて吉田・平川正副保護者会長の挨拶のあと、壇上に全職員が整列し、江村部長、各課長が今年の抱負を発表し、職員一同決意を新たに、仕事に立ち向う姿勢を示しました。

新春恒例の「初舞」は御山流家元 御山美和先生の日本舞踊、演目は「槍さび」が金屏風の前で舞われ、その流麗な姿に、利用者様・保護者様・職員も時を忘れて見入っていました。

その後、年男・年女、3名の利用者による乾杯で食事となり、料理に舌鼓を打ちつつ、余興として朱仙師匠による「曲独楽」が披露されました。リズムに合わせて、細い糸の上や開いた扇子の上で巧みに独楽を回す姿に、場内からはどよめきと共に喝采が送られました。

また、お汁粉も振舞われ、新春の気分になりました。そして、最後の余興として「琉球國祭り太鼓 埼玉支部」一同による「エイサー」が上演されました。迫力ある太鼓の音を響かせつつ踊る姿に、演奏後は会場から万雷の拍手とアンコールの声が上がりました。大いに盛り上がった新年会は副苑長の挨拶で閉会となりました。



文化祭 岡崎慎也

11月23日(木)、文化祭が開催されました。苑長の挨拶から始まり、その後、各食堂に展示してある作品を各々で見学しました。今回も試行錯誤し、工夫された数々の作品が並んでいました。他利用者の作品を見て刺激を受け、次回の参考にしたりと、利用者様・保護者様共にも楽しんでいました。撮影会も行われ、ここでは仮装等が出来、後日プリントした写真を配布し、良い記念になったと思います。



昼食後には、おやつ作りとしてティラミスを作りました。各テーブルで協力して行い、クリームやココアパウダーも自分の好きなように乗せ独自のティラミス作りを楽しみつつ、美味しく仕上がっていました。

余興としてキッズジョイ様によるダンスが行われました。小さな子供たちのパワフルで可愛いダンスが披露されると、会場からは「可愛い」や「頑張れ」等の歓声が上がりとても盛り上がりました。

実行委員特別賞に田中・柿沼・工藤・加藤・三宅各利用者様、又苑長賞は黒澤様、そして最優秀作品賞には松崎様選ばれ、表彰状が贈られました。賞状が贈られた利用者様は、皆笑顔で受取り、嬉しそうに拍手を受けていました。

運動会

野口亜理紗

10月9日(月)体育の日に、ホール棟にて運動会が行われ、赤・青・白の三チームに分かれて競い合いました。

第一種目は「菓子食い競争」で、例年とは異なり、宝に見立てたお菓子を宝箱から取り出すスタイルでした。中には外れもあり、当たりの宝が出るまで探し、最初の競技から大きな盛り上がりを見せました。

第二種目は「出た目で勝負」。サイコロを振り、出た目と同じ数のコーンを回って戻ってくるというリレー形式の競技です。初めて取り入れた競技でしたが、サイコロの目を見て一喜一憂し、楽しそうな笑顔を見せていました。

第三種目は、利用者様から人気の「スポーツ教室」。ボールを床に置いた円に入れるポッチャに似たチーム競技で各組、利用者様と職員が一丸となり、応援と共に白熱した勝負を繰り広げていました。

最後に、借り物競争と障害物競争の要素を取り入れた「利用者様・職員混合リレー」を行いました。指定の場所で借り物又は障害物のお題カードを引いてゴールする競技です。利用者様も職員も必死にお題をクリアしていました。

各種目共に職員が趣向を凝らした競技で、利用者様、職員、保護者様、皆が楽しむことが出来ました。



忘年会

串原佳那

12月13日(水)に忘年会が開催され、計40名の職員が参加しました。

今年最後の親睦会ということもあり、新人余興によるダンスで普段見ることのできない同僚の一面を見たり、景品がかけられたビンゴ大会で一喜一憂したりと、盛り上がりを見せました。

また、苑長より苑長賞として、ジャンケンで勝った職員に羊羹がプレゼントされました。



日々の業務に励む中では普段話せない事や、趣味の話で会話が弾み、より一層親睦が深まり、たくさんの方のリフレッシュが出来た忘年会となりました。

最後は恒例の男性職員による熊谷締めが行われ、記念撮影をしました。来年に向けてさらに職員間で協力して行きたいという気持ちが強まると共に忘年会は閉会となりました。